

# 情報

## 情報リテラシー

中学校 高校  
情報 道徳 総合

週刊 ニュース深読み 41分

# JK(女子高生)があぶない 知ってほしいスマホの世界

(2013年放送)

### この番組の良さ



#### なぜスマホが必要かを考える

高校1年生の男女のスマートフォン(以下スマホ)の所有率は84%(2013年総務省調査)であり、ケータイ全体では100%に近い所有率という現状です。

番組で、「持っている则便利」というインタビューがありますが、便利な反面、スマホ依存による生活への影響や、SNSから犯罪につながるケースの増加などがあり、深刻な社会問題にもなっています。

本番組は、親の世代であるコメンテーターと高校生が参加し、スマホの利用について互いの意見を交わし、相互理解を深めていきます。

「なぜ、スマホが必要なのか?」をあらためて考えるきっかけとなる番組です。

#### SNSの可能性を拓ける

本番組ではLINEを取り上げ、その特徴を踏まえて、いじめ問題や、LINEなどのSNS活用の可能性を考えていきます。

### 番組活用のポイント

#### LINEなどのSNSの危険性と効果的な活用について考える

番組内で、高校生のスマホ所有者の9割がLINEを使用していると紹介しています。何が高校生を夢中にさせているのでしょうか?

「学校ではできない話ができる」、「連絡がすぐに伝わる」など、高校生がLINEのメリットを述べていますが、反面、LINEのグループ内で「既読スルー」や「LINEはずし」など、いじめにつながる問題が増加しており、これらの不安を抱えながらLINEでのやり取りを続けていたり、自分から辞められない状況になっていたりすると言われています。またスマホ依存による睡眠障害やうつ病が発症していることも踏まえ、高校生にとって身近で便利なツールであるスマホを「どのように効果的に活用すればいいか?」、「SNSの危険性」などについて考察を深め、情報社会で生きる力や態度を育成する学習が展開できます。

#### 情報モラル育成に主体的に取り組む

愛知県の金城学院高校では、スマホなどに関するトラブルが後を絶たないことから、自らのリアルな体験や調査をもとに、生徒たちの力でガイドブックを作成しています。自分たちの身は自分たちで守るという意識のもと、毎年更新して新入生に配布しています。

このように、系統的かつ主体的に情報モラルの育成に取り組んでいる事例も、情報モラル教育を実践する上でとても参考になります。

使い方次第で可能性を拓けるスマホを学校に持ち込ませないといった指導ではなく、大人と子供が一緒になって活用のルールを作るなど、番組ではひとつの方向性を示しています。



「総合的な学習の時間」や教科「情報」などにおいて、テーマを設定して討議させるなど、学習活動の素材が満載の番組です。

## 学習展開例

授業時間   100分大分県教育庁  
指導主事 森 浩三

新着

LINEの会話とリアルの会話  
どちらが大事？

時間配分	学習活動	教師の支援
10分	① スマホのメリット・デメリットについて考える。 ワークシートにまとめ、発表する。	○スマホの便利な点や困っている点など、さまざまな意見を書き出させ、数人に発表させる。
40分	② まとめたメリット・デメリットを踏まえ、番組を通して視聴する。 ・「何が問題か？」を番組から感じ取る。 ・番組の視聴から感じたこと、気づいたことなどをメモする。  <b>視聴</b> ・高1男女のスマホ所有率は84% (2013年総務省調べ)	○ワークシートにまとめたメリット・デメリットを踏まえ、番組を視聴するように促す。 ○「何が問題か？」をキーワードとして視聴させる。 ○視聴で感じたことなどをメモするように指示する。  <b>彼女たちが夢中になるのはSNS</b> ・1日12時間を超える使用など、生活に支障をきたし社会問題となっている
25分	③ 番組視聴後、スマホ活用のメリット・デメリットを踏まえ、グループで下記のテーマについて討議を行う。 ☆討議テーマ例 「LINEの会話とリアル会話 どちらが大事？」 ・グループ討議で出された意見をまとめる。 どちらの場合でも、理由を明確にして発表できるようにする。 ・女子高生のスマホ所有者の9割がLINEを使用している現状	○番組視聴でメモしたこと、授業の導入でまとめたスマホ活用のメリット・デメリットを踏まえ、討議テーマを設定してグループ討議させる。 ・番組内での、NHK調査による「LINEの会話とリアル会話のどちらが大事か？」の調査データを再度提示し、討議の資料とする。 ・司会者や記録者（発表者）など役割を決めさせ、円滑な討議が展開できるように配慮する。 ・グループのメンバー全員が発言し討議が活発に展開されるように、机間を巡回して指導・助言を行う。
20分	④ 各グループでまとめた意見を発表する。 ・他グループの発表に集中し、自分たちのグループとの意見の相違点や類似点などを明確にする。 ・なぜ「LINEはずし」、「既読スルー」や「置き去り」などいじめにつながるさまざまな問題が増加しているか？	○発表者に、グループの意見が的確に伝わるように表現や態度などの留意点について説明する。 ・他グループの発表に集中させ、さまざまな気づきのため、意見の相違点など必要な事項をメモさせる。 ・グループの発表から、キーワードなどを板書しておく。 ・発表内容を踏まえ、面と向かったコミュニケーションとインターネット上のコミュニケーションの違いを認識させ、同時にインターネット上のコミュニケーションの特性や危険性に気づかせる。
5分	⑤ コミュニケーション手段の違いによって捉え方に個人差があることに気づき、今後どのように対応すればよいかワークシートに考えをまとめる。	○LINEだけではなく、他のSNSやメールなどインターネットを介したコミュニケーションについて、どのように活用すればいいか考えさせる。 ・ワークシートに考えをまとめさせ、評価資料とする。

## コラム

## 他の番組を活用し学びの深化を図る

関連番組として、ティーチャーズライブラリーの、『週刊 ニュース深読み つつめけ？丸見え？ネット時代の“個人情報”』や、『大人ドリル ビッグデータ革命！ SNSとどうつき合うか？』などをあわせて活用することで、多面的に問題を捉え、活用の方向性についてさらに考察を深める学習が展開できます。